

# 令和7年度 青森市子ども会議フォーラム 2025 FOR CHILDREN ~子どもをてらそう！Rightで明るいまちへ~

- 1 日 時** 令和7年11月16日（日）8時30分～12時30分
- 2 場 所** 青森市議会議場、委員会室
- 3 出 席 者** 子ども会議委員15名、ファシリテーター1名、事務局8名
- 4 次 第**
- (1) 開会
  - (2) 市長あいさつ
  - (3) 私たちからの意見表明
  - (4) 市長総括
  - (5) 閉会

## 5 開催概要

青森市では、「青森市子どもの権利条例」において、毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。

青森市子ども会議では、子どもが意見を表明し市政に参加する機会として「青森市子ども会議フォーラム 2025 FOR CHILDREN ~子どもをてらそう！Rightで明るいまちへ~」を、市議会議場をお借りして開催しました。

### リハーサル

午前8時30分に委員会室に集まり、それぞれ自分の読むところを声に出して読みながら確認しました。そして、リハーサル開始時間までの間に、子ども会議公式Instagramに“開催当日”をお知らせするための動画の撮影を行いました。撮影を終えた後は議場に移動し、リハーサルを行いました。リハーサルでは、意見表明の際の立ち位置や動きなどを確認し、本番に備えました。



### 開会

司会を務める委員から、開会のあいさつと子ども会議についての説明がありました。



本日のイベントは、子どもにとって大切な権利の一つである「意見を表明し参加する権利」を主眼に置き、青森市子ども会議委員が企画・運営しています。

私たちが参加している青森市子ども会議は「青森市子どもの権利条例」に定められており、今年度は、小学生13名、中学生10名、高校生6名の合計29名の委員が、子ども会議サポーター3名からアドバイスをいただきながら「笑顔あふれる青森市」をテーマに活動しています。

本日は、ここ青森市議会議場において、「私たちからの意見表明」として、2グループから「20年後の青森市のすがた」について発表し、西市長をはじめ理事者のみなさまからご意見・ご感想をいただきます。

ご来場の皆さんには、私たちの発表を最後までお聞きいただけたらと思います。

## 市長あいさつ

市長から、昨年度の子ども会議フォーラムで出た意見を受け、市が取り組んだことなどについて説明がありました。



本市では、毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」と定め、皆さんのが意見を表明し、参加できる機会を提供しています。ここ青森市議会議場での開催は今回で8回目となります。

さて、昨年度の子ども会議フォーラムでは子ども会議委員の皆さんからいただいたご意見を基に、市が取り組んだことが実際にありますのでここでご紹介します。

「青森市観光大使や青森市にゆかりのスポーツ選手を多くの人に知ってもらうための取組を行ってほしい」というご意見をいただきましたが、青森市では、今年7月に駅前スクエアにおいて、青森市観光大使の紹介パネルを展示しました。また、9月には青森市出身や青森市にゆかりがあるスポーツ選手の一覧を青森市のホームページに掲載いたしました。

今年度は「笑顔あふれる青森市」をテーマに、皆さんのが調査、研究を重ね描いた「20年後の青森市のすがた」について発表してもらうと聞いています。

皆さんのが青森市の魅力について気づき、考え、意見を表明してくれることが、私も大変うれしく、ワクワクしているところです。

子ども会議委員の皆さんには、ぜひ青森市を誇りに思い、シビックプライドを持って、その魅力を友達や家族、市外の方々にも伝えていってほしいと思っています。

皆さんの誇りと挑戦が、未来の青森市を創っていく原動力になります。青森市子ども会議委員の皆さんのがこれからのご活躍に大いに期待して、私からの開会の挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いします。

## 私たちからの意見表明 (Let's go! Town make)

### <20年前の青森市>

20年後の青森市について意見表明をするにあたり、20年前の青森市について青森駅、市営バス、雪、ごみについて調べてみたところ、青森市は少しづつ変わりながら、観光・まちづくりの全てで成長してきたことが分かりました。

### ○青森駅について

### ～20年前（2005/H17年頃）の青森市～

#### ●青森駅について



#### ●市営バスについて

…県内で初めてノンステップバス導入！

#### ●雪について

…2005年の降雪量は1953年からの観測史上5位の大雪だった！

#### ●ごみについて

…現在の清掃工場は、H27.4.1(2015年)から供用開始！

当時の青森駅の様子について写真を比べてみると、青森駅が大きく変わってきたことが分かります。20年前の青森駅はレトロな雰囲気で味があり、今の駅は新しい青森の未来を感じます。変わっていくことは少し寂しくもありますが、その中に青森市がより良いまちに成長していることを感じました。また、「青森駅周辺整備基本計画」が作られ、新幹線の開業に向けて駅周辺をきれいにしたり、観光施設を整えたりしていたことが分かりました。ねぶたをテーマにした施設ができたりした

ことで、青森らしさをより感じられるまちになっていると思いました。

#### ○市営バスについて

20年前には、県内で初めてノンステップバスが導入され、アイドリングストップバスも走り始めたようです。人にも環境にもやさしい交通になっていることが分かります。さらに、小学生以下の子どものバス料金を無料にする取組もこの頃から始まっていて、青森市が子どもや家族にやさしいまちづくりを進めていたことが分かりました。

#### ○雪について

20年前の青森市の降雪の深さは1953年からの観測史上5位の大雪で、2000年以降では1番多い年だということがわかりました。昨年度は豪雪という言葉をたくさん聞いた年でした。最近は短時間にたくさん降ることが多くなり、雪の降り方も少しづつ変わってきています。それでも、除雪体制の工夫などで、人々の暮らしを守る取り組みが続いていることを感じました。

#### ○ごみについて

現在の清掃工場は2015年に新しくなり、毎日24時間体制で焼却処理を行って、舗装資材等の資源となるスラグを生成し売却する仕組みや「破碎機」によって破碎処理を行って、資源となる鉄、アルミを回収し売却する仕組みなどで環境にやさしく、資源を無駄にしない仕組みが作られていることが分かりました。

ここから、私たちが考える「20年後の青森市」について調査・研究活動を通して話し合いを重ねてきた結果を発表します。

#### <活動を始めたきっかけ>

将来より良い青森市にするためには、「観光客に青森市の魅力を伝え、観光客を増やすこと」「みんなが過ごしやすいまちづくりを進めること」が必要だと考え、観光とまちづくりの2つの視点を中心に活動してきました。



グループ名は、明るい印象の「Let's go!」と難しそうな聞き馴染みのある「まち=Town」「つくる=make」を組み合わせて「Let's go! Town make」としました。

私たちはこれまでに、「青森駅周辺の駐車場及び駐輪場調査と、おみやげ店の調査」、「市営バスに乗って、観光名所である「三内丸山遺跡」「リンクステーションヒルズ雲谷」を見学」、「青森市の特産物を使った子ども会議弁当を作成し公式インスタグラムで発信」などの調査・研究活動を行いました。

#### <調査・研究活動>

##### ○青森駅周辺の駐車場・駐輪場調査

青森駅東口、西口、あすなろ橋下には、どこもたくさんの車や自転車を停める場所があることが分かりました。駐輪場は全て無料で、駐車場も最初の30分は無料でした。駅西口

**①青森駅周辺の駐車場・駐輪場調査**

●調査場所:青森駅東口・西口、あすなろ橋下、新町の計5か所  
●調査項目:台数・利用料金・安全性・時間制限・利用のしやすさ

歩きながら気づいた点も話し合い、調査用紙に記録!

は駅東口に比べ、人通りが少なく感じたので、監視カメラなどがあればより安全性が高まると感じました。あすなろ橋下の駐輪場は、自転車の駐輪台数が多く通路が狭くなってしまっていたのできれいに整備することでより利用しやすくなると感じました。東口にはレンタサイクルなどもあり、観光客も市民も使いやすくて便利だと感じました。新町は駐輪場が少なく、また、路上に停められている自転車が多かったり、駐輪禁止の表示が見えづらい場所もありました。

### ○駅のおみやげ店調査

ねぶた期間中ということもあり、外国人観光客の姿も多く見られました。おみやげの品ぞろえはとても豊富で、たくさん種類の食べ物やキーホルダーだけでなく、青森ならではの伝統工芸品やねぶたをモチーフにした雑貨などもあり、青森を満喫できる内容でした。おみやげ店の照明や外観なども工夫されていて、見ていて楽しい、おしゃれな空間でした。値段は少し高いと感じるものもありました。営業時間は新青森駅が9時～19時、青森駅は10時～20時ということがわかりました。また、新青森駅ではねぶた期間で臨時レジが設置されていましたが、それでも長い列ができていたり、ごみ箱からごみがあふれたりしていました。

**②駅のおみやげ店調査**

- 調査場所: 青森駅・新青森駅(ねぶた祭り期間に実施)
- 調査項目: 外国人観光客の多さ・品ぞろえ・値段・場所・営業時間

歩きながら気づいた点も話し合い、調査用紙に記録!

### ○観光名所の見学

市営バスに乗車し、観光名所である「三内丸山遺跡」と「リンクステーションヒルズ雲谷」の見学に行きました。

三内丸山遺跡では、外にたて穴住居やほったて柱建物が広がっていて、当時の人々が着ていた服を着る体験や、土器づくりなどの体験ができ、実際に縄文時代を身近に感じることができます。ミュージアムの中には、たくさんの土器や人の模型などが展示されていて、映像で縄文遺跡群を見ることができ、とても分かりやすかったです。また、タブレットを使った解説は多言語に対応しており、外国の方にもやさしい工夫がされていました。さらに、縄文食材を使った料理を楽しめるレストランや、おみやげ店もあり最後まで縄文の世界を楽しむことができました。観光客の皆さんにも、ぜひこの魅力を体感してほしいと思いました。

**③観光名所の見学**

- 見学場所: 三内丸山遺跡、リンクステーションヒルズ雲谷
- 目的: 観光地としての魅力や、観光客を増やす工夫を考える

調査用紙に記入しながら見学!

リンクステーションヒルズ雲谷では、ヒルズクラブ前からスタートし、ケビンハウスやキャンプ場を通って山側の遊歩道を歩きました。真夏の時期でしたが、標高が高いため涼しく、自然に囲まれた道はとても気持ちよかったです。途中では市内を一望できる場所や、そば畠、ひまわり・コスモス畠など、普段は見られないような景色を楽しむことができました。ヒルズクラブの中には、プールやキッズルーム、特産物が売られているお店があり、テラスには輪なげやストラックアウトなどの遊びスペースもありました。モヤヒルズは冬のスキー場のイメージが強いですが、夏にもたくさんの魅力があります。初めての人にも分かりやすいようにイラスト付きの案内看板を設置したり、季節ごとのイベントを行うことで、もっと多くの人が訪れると思いました。

## ○子ども会議弁当づくり

青森市の特産物で作ったお弁当のメニューは、「源たれからあげ」「貝焼き味噌」「しょうが味噌おでん」「嶽きみごはん」「りんごドレッシングサラダ」の計5品です。また、子ども会議や子どもの権利相談センターのPRもかねて、それぞれのキャラクター入りのつまようじを作りました。源たれからあげは、辛くなく、子どもから大人まで食べられる味で大好評でした。貝焼き味噌は、卵を準備するだけで電子レンジでも作れるタイプを使いましたが、本格的な味でとても美味しかったです。しょうが味噌おでんはお弁当としては斬新なメニューでしたが、こちらも好評でした。嶽きみごはんは、調味料を使わなくても、嶽きみ本来の甘みで十分美味しかったです。りんごドレッシングサラダは、作るとき少し不安でしたが、りんごの酸味と野菜がよく合い、好評でした。青森の魅力がぎゅっと詰まったこのお弁当をPRすることで、青森に来てくれる人が増えたらうれしいです。完成したお弁当は、青森市子ども会議の公式インスタグラムに投稿しました。



## <意見表明>

以上の今年度の活動をふまえて、私たち Let's go! Town make グループは、青森市をより良くするため、また、将来、青森市がこうなってほしいという思いを込めて、3つのテーマ「交通」「除雪」「ごみ」について意見を表明します。

## ○交通について

### ★課題と解決したい理由

青森市のまちなかでは、人通りが多い場所での路上駐車や駐輪禁止区域に自転車が停められている様子が見られます。これらは通行の妨げになるだけでなく、事故の原因やまちの景観の悪化にもつながると感じました。また、市営バスについては、利用する人が少ないためなのか、運賃が高く、本数があまり多くないのではないかと感じています。



### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、「安心して歩いて、気持ちよくバスを利用したりできるまち」になっていてほしいです。

20年後の青森市は、駐車場や駐輪場が使いやすく整備され、路上駐車や駐輪禁止区域での駐輪が無くなります。また、市営バスの利用者が増え、運賃が下がり、本数も増え、みんなが使いやすい交通手段になっています。

### ★必要と考える取組

新町周辺に無料の駐輪場を増やし、既存の駐車場・駐輪場に屋根や監視カメラを設置して安全性や快適性を高めたり、マナー啓発のポスターを掲示して路上駐車や駐輪禁止区域の意識を高めることで、駐輪が減って安心して歩ける道となり、まちの景観も良くなると考えます。また、市営バスの利

用促進のために、ポスターやSNSでPRしたり、バスの車体を人気のある絵や写真にするなど、利用したくなるような工夫をしていくことでバスの利用が増え、より快適に過ごせるようになると考えました。

## ○除雪について

### ★課題と解決したい理由

青森市では、通学路などの歩道の雪が十分除かれていないかったり、排雪作業が追いつかないことがあります。その結果、雪による事故の危険性が高まったり、雪かきに時間がかかって家族と過ごす時間が減ってしまうなど、冬が苦しい季節になってしまっていると感じました。

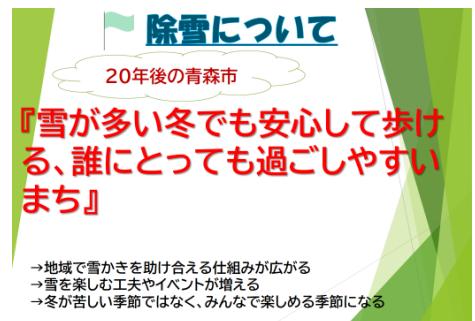
### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、「雪が多い冬でも安心して歩ける、誰にとっても過ごしやすいまち」になっていてほしいです。

20年後の青森市は、地域で協力し合える仕組みがさらに広がり、雪かきが大変なときはみんなで協力し合っています。また、雪を楽しむ工夫が増え、雪だるまの大きさを競うコンテストや雪の職業体験などが行われ、冬が苦しい季節ではなく、みんなで楽しめる季節になっていてほしいです。

### ★必要と考える取組

効率的な除排雪の仕組みを整えることのほか、地域で協力するため子どもたちによる雪かきグループの設立、また、除雪機の貸与事業をもっと周知するため、ホームセンターなど除雪機を販売している場所にチラシを掲示することで、より多くの人が除雪に参加しやすくなると考えます。そのほか、雪を楽しむために冬ならではの職業体験や、雪を使ったイベントなどを実施することで、冬を楽しく過ごせる季節にできると感じました。



## ○ごみについて

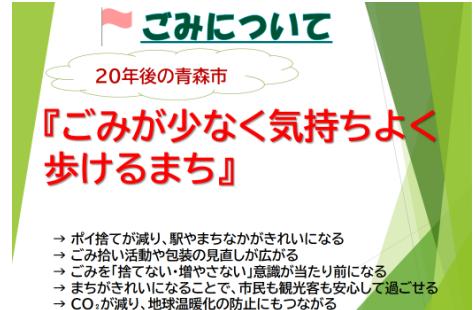
### ★課題と解決したい理由

観光客が増えたりすることで、ポイ捨てなどによるごみが増えるとまちが汚くなったり、ごみの焼却量が増えることで地球温暖化が進んで、もっと暑くなり、暮らしにくいまちになってしまいます。そのため、市民のまちへの愛着が薄れたり、観光客が減ってしまうのではないかと感じました。また、お土産はきれいに包装しているものが多いですが、使ったあとすぐに捨てられることが多くもつたないと感じました。

### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、「ごみが少なく、歩いていて気持ちのよいまち」になっていてほしいです。

20年後の青森市は、ポイ捨てが減り、まちや駅もきれいになっていて、ごみ拾いの活動の広がりや、包装紙の見直しが進み、みんながごみを捨てない・増やさないという心がけが当たり前になっています。まちがきれいになることで、観光客も安心して訪れることができ、市民にとっても暮ら



しやすくなります。さらに、ごみが減ることでCO<sub>2</sub>も減り、地球温暖化の抑制にもつながっていってほしいです。

### **★必要と考える取組**

ポイ捨てが減るように、ユニークなデザインや圧縮機能付きのごみ箱の設置や、外国の方向けにごみを捨てないことをイラストや多言語でわかりやすく案内するポスターを掲示したり、ごみ拾いのボランティア活動を増やすこと、また、おみやげの包装をプラスチックフィルムから紙製にしたり、使ったあとに折り紙やメッセージカードとしてリメイクできるようなデザインにするなど、ごみを減らし、再利用して大切に使うという意識を持ってもらうことで、美しくて安心して暮らせる青森市につながっていくと考えます。

ぜひ、私たちが思い描く青森市になってほしいと思います。

### **市からの意見・感想**

(市民部 佐藤部長)

自転車の駐輪については、歩行者の安全な行き来とまちの景観を維持するために、条例をつくり、青森駅東口周辺区域の歩道部分を自転車放置禁止区域にするとともに、自転車利用者のために、東口と西口に合計約1,360台の駐輪が可能な駐輪場を設置し、無料で利用いただいている。自動車駐車場につきましても、東口と西口に合計約50台の駐車が可能な駐車場を整備しています。



このほかに、現在、専門の巡視員によって放置禁止区域の毎日の巡回指導を行い、見えにくくなったり駐輪禁止標示などの貼替も行っているほか、広報紙、ホームページでの周知啓発活動を通して既存の駐輪場の利用促進と安全な歩行空間の確保に努めています。

ご意見をいただきました駐車場や駐輪場をもっと増やしたい、今あるものに屋根等を付けたりすること、より一層利用しやすくなり、また、路上駐車、駐輪禁止区域での駐輪が減って、まちの安全性・景観の向上につながるというアイデアはとても効果的だと思いました。

20年後の青森市のすがたを見据えた皆さんのがんの声を、しっかりと受けとめ今後のまちづくりに活かしていきたいと思います。

(環境部 齊藤次長)

皆さんがまちをよく観察して、ポイ捨てによるごみに着目し、青森市を「明るくてきれいな住みやすいまち」にしたいという熱意が、とてもよく伝わりました。また、地球温暖化の防止をも視野に入れて、ごみの削減に向けた具体的な提案をしていただき、とても嬉しく思っております。



市では、令和6年3月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにすることを目指しています。その中でも、ごみは取り組むべき課題の一つとなっており、ごみ箱を設置するなんでも捨てる人がいる一方で、きれいな場所だとごみを捨てにくくなるという効果もあり、ごみ箱の

設置の問題はとても難しい問題だと思っております。

「広報あおもり」やホームページでポイ捨て防止を呼びかけたり、毎年、小学4年生の方に「ジュニア版ごみハンドブック」をお配りして、みんなで公共の場所をきれいにしようと呼びかけております。また、町会の皆さんと協力して「市民一掃きデー」などのボランティア清掃も行っています。

皆さんの地域でも、一生懸命ごみ拾いをして、きれいなまちをつくろうとしている方がたくさんおります。ぜひそうした活動に参加していただいて、新しいアイデアや工夫を見つけてください。

これからも、みんなで力を合わせて、明るくきれいな青森市を一緒につくっていきましょう。

#### (経済部 横内部長)

今年、青森駅前地区に導入した電動アシスト付きのレンタサイクルや昨年リンクステーションヒルズ雲谷に整備した登山道など、新たな魅力にスポットを当てて調査して、大人の私たちでは気づかない子ども目線で、今後とても参考になる提案をいただいたことに、まずは感謝します。ありがとうございました。

まず、除雪に関する発表の中で、冬をみんなで楽しめる季節になってほしいとのご意見がありました。青森市は人口30万人規模のまちとしては、世界一雪が降ると言われており、雪と親しむ取組はとても大切なことだと考えています。



青森市では、冬のイベントとして、青森駅前地区で毎年12月から2月にかけて、「青森冬のワンダーランド」と題し、雪の大型滑り台などが体験できる「青森雪まつり」や、県内でも珍しい雪の中で打ち上げる「冬花火」などを開催しています。また、皆さんがスキー教室で訪れるリンクステーションヒルズ雲谷でも、家族や仲間と協力してスコップで雪を掘り起こす「地面堀り競争」や、大抽選会、雪上ゲーム大会、スキーフェスティバルなどが行われる「ウインターフェスティバル」などを開催していますので、この冬は、是非、これらのイベントに参加して青森の冬の楽しさを体感してもらいたいと思います。

ご紹介したイベントは、毎年、新しい企画を検討していますので、皆さんからもご提案がありました「雪だるまの大きさを競うイベント」や「雪の職業体験」も、今後の検討材料とさせていただきます。

次に、ごみに関する発表についてです。青森は外国人に人気の観光地で、東北では宮城県に次いで、たくさんの外国人観光客が訪れる県です。その中でも、青森市には、昨年、約16万人の方が宿泊をして、コロナ前の令和元年と比べ約1.5倍に増加しています。それから、青森港には、大きいものでは約4千人が乗船するビルのようなクルーズ船が、今年は東北で一番多い41回訪れ、多くの外国人観光客の皆さんが出でています。

青森市では、外国人観光客の皆さんのが、安心してまち歩きを楽しめるように、英語、中国語、韓国語などで記載したまち歩きマップや看板等を作り観光案内を行っているほか、青森駅前地区の商店街では、どのような商品が売られているか、英語で話せるスタッフがいるかが分かるポスターを店舗入口に貼り出すなど、観光客のおもてなしに取り組んでいます。

皆さんから、外国の方向けにイラストや多言語でわかりやすく案内するポスターの掲示といったご意見がありましたが、観光客の視点に立った良いご提案ですので、マップなどを更新する際に参考

とさせていただきます。

最後に、今日、参加している子ども会議の皆さんにお願いがあります。今年は開港 400 年、そして来年はまちづくり 400 年という青森市にとって大きな節目の年になり、様々な記念行事やイベントが開催されます。これらのイベントについて皆さんのご参加と友達やご家族、ご親戚などへの PR、そして今後、観光客と接する機会がありましたら、また、青森市に来たいと思ってもらえるように、おもてなしにご協力をお願いします。

(都市整備部 土岐理事)

青森市は、国内外でも有数の豪雪都市で、毎年やってくる降雪時期を安全・安心で、快適に過ごせるためのまちづくりは大きな課題となっています。今回、除雪についての 20 年後の青森市のすがたとして、地域のみんなで協力する仕組みや雪で大変なときでも助け合える仕組みづくりの大切さなどを描いてくれたことは、私たち市役所職員にとっても、とても参考になるものであり、将来に向けて大きな励みとなりました。



昨年度は、年末年始の短期間に集中的な降雪による記録的な豪雪災害になるなど、近年の気象状況はこれまでと大きく変わってきています。皆さんの通学路などの歩道については、市の職員によるパトロールで状況を確認しているほか、各町会や地域住民の皆さん、学校関係者の方などから情報提供をいただきながら、除雪が必要であると判断した時は、除雪事業者に出動指令を出して除雪を実施しています。

また、冬期間の安全で快適な歩行者空間を確保するため、自主的に地域の歩道などの除雪に取り組んでいただいている P T A の皆さんや町会の皆さんなどに対して、市がハンドガイド式小型除雪機を無償で貸与する事業を行っており、今年度は今日現在で市内 98 団体に貸出しをしています。

本日、ご提案のありました効率的な除排雪体制の構築に向けた取組や、除雪機の貸与事業をはじめとする雪対策に関する情報を広く周知する取組など、皆さんからの声をしっかりと受け止め、皆さんと一緒に雪に強い青森市をつくり上げていくことが、とても大切なことだと改めて感じました。

(交通部 高野部長)

先ほどの発表のなかにもありましたように、子ども会議委員の皆さんは、実際に市営バスに乗り、いくつかの観光地を訪れました。その際、交通部の職員とのやり取りや観光地での様子などを通じて、それぞれが青森市の現状を自分ごととして捉え、また、積極的に考えている姿勢が印象的であったと、同行した担当者から伺っております。



今回、市営バスに対しても、様々なご意見・ご提案をいただきました。20 年後の市営バスが利用される方々にとって、より一層使いやすい手段となりますよう、皆さんの意見表明も参考にしながら、引き続き取組を進めてまいります。

それから、市営バスは令和 8 年 3 月 6 日に創業 100 周年を迎えます。この記念すべき 100 周年記念事業の一環として、皆さんもご存知のポケットモンスターのピカチュウをはじめ、数々の人気キャラクターを制作しました「にしだあつこ」さんが、青森市の花であるハマナスの花の実をモチーフと

しましたキャラクターを制作してくれました。

皆さんの発表の中に市営バスの利用促進のための提案として、バスの車体へのラッピングがありました。このキャラクターをデザインしたラッピングバスを、現在、計画中ですので、楽しみにしていてください。

また、100周年記念事業として、子ども会議委員の皆さんによるアナウンスによるバス停や観光地の案内のバスの車内放送をすることとしており、先日、その収録を行いました。4月からその音声が流れますので、委員の皆さんも、本日会場にお越しの皆さんも、ご家族やご友人などと一緒に実際に市営バスに乗って、子ども達のアナウンスを聞いていただければと思います。どうぞよろしくお願ひします。

### 委員からの感想



理事者の皆さんからの話を聞いて、外国人観光客が東北の中で宮城県の次に多いということなど、私がまだ知らなかつたことをたくさん知ることができ、今後の子ども会議の活動に活かしていきたいと思いました。

また、私たちが発表した20年後の青森市に向けたまちづくりの意見も、ぜひ今後のまちづくりに活かしていただきたいと思います。次の世代、さらに次の世代まで続く青森市になってほしいと思います。

本日はお忙しい中、私たちの意見表明を聞いてくださりありがとうございました。

### 私たちからの意見表明（青森ライト～権利で青森の明るい未来へ～）

#### <20年前の青森市>

20年前の青森市について、子どもの権利を中心に調べてみたところ、20年前から青森市が「子どもの権利を大切にするまち」として歩み続けていることがよく分かりました。

#### ○青森市子どもの権利条例について

今では全国で81の自治体が、子どもの権利を守るために条例をつくっているようです。

青森市がこの条例を制定したのは、平成24年（2012年）の12月25日でした。つまり、20年前の青森市にはまだ「子どもの権利条例」が無かったことがわかりました。青森市子どもの権利条例では、「子どもの最善の利益を第一に考えること」「子どもを保護されるだけでなく、自分の意見を言える権利を持った存在として尊重すること」「年齢や発達に合わせた支援を行うこと」が定められています。また、大人の責任として、保護者や先生、地域の人たちが子どもの権利を尊重することが求められていることがわかりました。さらに、市の取り組みとして「子どもの権利を広める活動」や「学びの機会の提供」、そして毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」と定めていることも特徴です。

#### ～20年前（2005/H17年頃）の青森市～

##### ☆子どもの権利

…平成17年12月に東京都目黒区が全国で4番目に子どもの権利を守るために条例を定めた！（青森市は34番目）

##### ☆青森市子どもの権利条例

…青森市子どもの権利条例は、平成24年12月に制定！

##### ☆子ども会議

…平成16年に青森市子ども会議の前身「青森市こども委員会」を設置！

## ○子ども会議について

子どもが市政について意見を言える場として「青森市子ども会議」を設置し、この活動は、平成16年に始まった「青森市こども委員会」を前身とし、21年間続いている。子ども会議では、子どもが実際に市の人々に意見を伝え、その意見が採用された例もあります。このように、子どもの意見がまちづくりに生かされる仕組みが長く続いているのは、とても有難いことだと思いました。全国的に見ても、青森市のように子どもが自分の意見を表明し、市政に参加できる取組が長く続いている例は多くはありません。

ここから、私たちが考える「20年後の青森市」について調査・研究活動を通して話し合いを重ねてきた結果を発表します。

### <活動を始めたきっかけ>

将来より良い青森市にするためには、「全ての子どもに子どもの権利を理解してもらうこと」「大人も子どもの権利を知る機会を増やすこと」が必要だと考え、子どもの権利に視点を置いて活動を進めてきました。



グループ名のライトには英語で権利を意味する「Right」と光・明るさを意味する「Light」という2つの意味が込められています。これらの思いを具体的に表すために、サブタイトルを付けて「青森ライト～権利で青森の明るい未来へ～」としました。

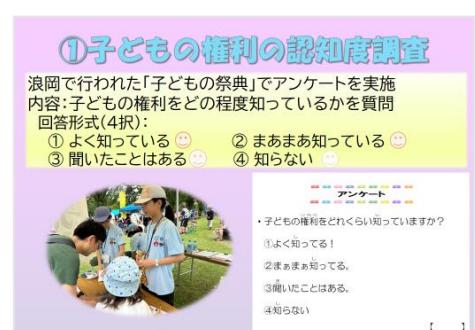
私たちはこれまでに、「子どもの権利の認知度調べ、イベントでの子どもの権利の普及啓発活動」、「子どもの権利に関する講座の受講」、「市営バスのラッピングや車内掲示による子どもの権利のPR方法の検討」、「子どもの権利相談センターの紹介動画の作成」などの調査研究活動を行いました。

### <調査・研究活動>

#### ○子どもの権利の認知度調査

7月に浪岡で行われた子どもの祭典でのブース出店の際に、子どもの権利に関する認知度アンケートを実施しました。質問は「子どもの権利をどれくらい知っていますか？」で、①よく知っている②まあまあ知っている③聞いたことはある④知らない、の4択で回答してもらいました。

アンケートの結果は、①よく知っている：13人、②まあまあ知っている：25人、③聞いたことはある：32人、④知らない：56人という結果でした。合計126人の方がアンケートに回答してくれました。「よく知っている」「まあまあ知っている」と答えた方もいる一方で、内容をあまり知らない方も少なくありませんでした。



## ○イベントでの子どもの権利の普及啓発

7月に開催された浪岡の「子どもの祭典」では、子どもの権利や子ども会議をPRするブースを出展しました。子ども会議委員が考えた子どもの権利に関するクイズを、○×の的を倒しながら答えるゲームや、子ども会議のキャラクターを使ってスノードームづくりなどを行いました。スノードームは材料を150個用意していましたが、全て無くなってしまったので、多くの子どもたちに遊びを通して楽しんでもらいながらPRすることができたと思います。

また、8月には青森ねぶた祭に参加して、子どもの権利と子ども会議のチラシやねぶたの鈴などをセットにしたものや花笠マスコットなどの子どもの権利のPR物品を配りながら子どもの権利や子ども会議についてPRしました。昨年度に引き続き、青森市社会福祉協議会のボランティアアドバイザーの皆さんから作り方を教えていただきながらみんなで花笠マスコットを作成し、子どもの権利に関する標語をつけて配布しました。細かい作業に苦戦することもありましたが、観光客の皆さんのが手を伸ばして喜んで受け取ってくれて、嬉しかったです。

各種イベント等を通して、少しでも多くの人に「子どもの権利」や「子ども会議」を知ってもらえるよう活動しました。

②イベントでの子どもの権利の普及啓発

7月の浪岡「子どもの祭典」でPRブースを出展し、子どもの権利や子ども会議を紹介

○×のクイズ的でゲームで楽しく学べる工夫！  
子ども小遣などの実物を使ったスノードームづくりも実施

遊びを通して、多くの子どもに興味を持ってもらえた！

8月の「青森ねぶた祭」に参加し、子どもの権利PR物品を配布し、子どもの権利や子ども会議について観光客へPR

細かい作業に苦戦、工夫、多くの人に喜んで受け取ってもらえた！  
花笠マスコットを作成し、標語をつけて配布！

各種イベントを通して、「子どもの権利」「子ども会議」の認知拡大に努めた！

## ○市営バスを使用したPR方法の検討

もっと多くの人に子どもの権利を知ってもらうためには、毎日目にするものに伝える仕組みが必要だと考えました。そこで思いついたのが、市営バスへのラッピングや車内掲示によるPRです。実際に市営バスに乗って、掲示スペースの位置や見えやすさを確認しながら調査を行いました。バスの車内には、席の上の方や座席の後ろ、窓、車体には側面の部分や後ろに掲示ができるスペースが見られました。バスの車内には、昨年度の子ども会議で作成した「子どもの可能性新聞」を貼り、ねぶた祭りの子どもの権利普及活動で配った「花笠マスコット」をぶら下げたいという意見や、バスの外側には、「子ども会議って知ってる？」という文字や、「けんりはかせ」、子どもの権利相談センターのマスコットキャラクター「ほたまる」などのイラストを載せたいという意見が出ました。

③市営バスを使ったPR方法の検討

見学場所：市営バス（車内・車外）  
目的：日常で目にする交通機関を活用し、子どもの権利を広くPRする方法を考える

調査用紙に記入しながら検討！

## ○子どもの権利相談センターの紹介動画の制作

困ったときに相談できる場所として、青森市には「子どもの権利相談センター」があります。より多くの人に知ってもらうため、子どもたちにもわかりやすく伝える動画の撮影をしました。動画では、興味を引けるように、子どもの権利擁護委員や相談員にインタビューをしたい、どういう人が相談に対応してくれるのかというのを紹介したいなどたくさん

④子どもの権利相談センター紹介動画の制作

作成した理由：困ったときに相談できる場所をもっと知ってもらうため  
主な内容：相談センターの紹介、対応してくれる人の紹介、相談の流れ、イメージ

工夫したこと：インタビューや興味をひく内容を考案、パソコンで編集、字幕入力に挑戦、「困ったら相談していい」と思える動画にした

の案がでした。その結果、「子どもの権利相談センターの概要を紹介」、「相談対応者を紹介」、「相談状況イメージを紹介」の3種類を作ることにしました。パソコンでの編集作業にチャレンジし、難しいながらも字幕の入力にも挑戦しました。見た人が「もし困ったらここに相談していいんだ」と思ってもらえるよう、心がけました。

### ○子どもの権利に関する講座の受講

子どもの権利についてより深く知るために、子どもの権利擁護委員の先生にお越しいただき、講座を受けました。「権利とは?」「人権とは?」、「個人の尊厳について」「人権は無制限ではないこと」などについて、具体例を用いてわかりやすく解説していただきました。権利や人権のことを楽しく学ぶことができ、身近だけれど初めて知る内容もあり改めて大きさに気づくことができました。

⑤子どもの権利に関する講座の受講

〈講座の目的〉  
子どもの権利を深く学ぶため、子どもの権利擁護委員の講座を受講  
〈主な学習内容〉  
「権利・人権とは?」「個人の尊厳」「人権は無制限ではない!」などを具体例で学習  
〈学んで感じたこと〉  
身近だけれど知らなかったことも多く、権利の大切さを改めて実感



### <意見表明>

以上の今年度の活動などを基に、私たち青森ライト～権利で青森の明るい未来へ～グループは、青森市をより良くするために、また、将来、青森市がこうなってほしいという思いを込めて、3つのテーマ「子ども会議」「子どもにとっての子どもの権利の認知」「大人にとっての子どもの権利の認知」について意見を表明します。

### ○子ども会議について

#### ★課題と解決したい理由

青森市では、子どもの権利の普及啓発や市の施策について意見表明を行っている子ども会議のことを知らない人が多いと思います。友達に「子ども会議って何?」と聞かれることがあることや、委員数がまだ少ないため、活動の輪が広がりにくいと感じています。

子ども会議について

20年後の青森市

☆子ども会議の認知度が高まり、参加者が増えて活発に意見表明が行われることで、「子どもまんなか社会」が実現されているまち



→子どもと大人が世代を超えて意見を交わし合える  
→お互いの意見を大切にしてまちづくりを進める青森市

#### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、子ども会議の認知度が高まって、参加者が増え、活発に意見表明することにより「子どもまんなか社会」が実現されているまちになっていてほしいです。

20年後の青森市は、世代を超えて意見が交わされ、子どもも大人もお互いの意見を大切にしながら、より良い青森市がつくられています。

#### ★必要と考える取組

新聞やチラシ、ポスターなどで子ども会議のことや子ども会議で行っているイベントを周知したり、委員が積極的に友達に紹介したりして認知度を上げることで、子ども会議の委員数が増えて活動が活発になり、子ども会議の輪が広がると考えます。

## ○子どもの権利の認知(子ども)について

### ★課題と解決したい理由

青森市では子どもの権利のことを知らない子どもがまだ多く、また、子どもの権利について学習しようとする意欲が低い子どももまだ多いと思います。子どもの権利について詳しく知らないために、子どもが自分の意見を伝えることを諦めてしまっていることが多いのではないかと感じています。

### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、子どもたちが自分の権利について理解し、意見を自由に発信できるまちになってほしいです。

20年後の青森市では、今の学びが将来につながり、子どもたちの権利が尊重されるまちとなって、みんなが安心して暮らすことができています。

### ★必要と考える取組

現在主流なコミュニケーションツールとなっているSNSを活用し、動画などで情報発信を行うことにより認知度を高めることや、子どもの権利をより楽しく学べるイベントを継続して実施することで、今から子どもの権利をしっかりと学ぶことができるとともに、今の子どもが将来、子どもの権利を理解した大人となり、市民全体への理解が広がっていると考えます。

## ○子どもの権利の認知(大人)について

### ★課題と解決したい理由

青森市では、大人が子どもの権利について十分に理解していないため、子どもの悩みが聞き入れられないことがあったり、いじめや差別などの問題が見逃されてしまう可能性があると感じています。

### ★20年後の青森市

20年後の青森市は、大人が子どもの権利をしっかりと理解し、子どもの意見や悩みに耳を傾けるまちになってほしいです。

20年後の青森市では、子どもが相談しやすい環境が整い、いじめや差別などの問題も見逃されにくくなっています。大人と子どもがお互いを尊重し、協力することで笑顔あふれる青森市になっています。

### ★必要と考える取組

大人向けの研修会や学習機会を増やすとともに、子どもの権利を守るためにできることなどの意見を大人から聞いて、集まったアイデアを子ども会議フォーラムやパネル展で紹介することで、大人も子どもの権利をしっかりと理解できるようになっていくと考えます。

ぜひ、私たちが思い描く青森市になってほしいと思います。

## 子どもの権利の認知(子ども)について

### 20年後の青森市

#### ☆子どもが自分の権利を理解し、自由に意見を発信できるまち

- 子どもの声が大切にされる
- 今の学びが将来につながり、権利が尊重される
- すべての人が認め合い、安心して生活できる

## 子どもの権利の認知(大人)について

### 20年後の青森市

#### ☆大人が子どもの権利を理解し、意見や悩みに耳を傾けるまち

- 子どもが安心して相談でき、いじめや差別が見逃されにくい環境が整っている
- 大人と子どもがお互いを尊重し、協力することで、笑顔あふれる青森市

## 市からの意見・感想

(こども未来部 大久保部長)

子どもの権利をテーマに調査や活動を進めてきた皆さんの「子どもの権利を広めたい」という強い思いがしっかりと伝わってきました。子ども会議は、皆さんの意見を聞くことができるとしても貴重な機会です。子ども会議の認知度が高まることは、多くの子どもたちに参加してもらえるきっかけとなり、さらに活動が活性化されることだと思います。より良い青森市をつくるために多くの子どもたちの意見が聞けるよう、皆さんと一緒に子ども会議の活動の輪を広げていきたいと思いますので、これからも力を貸していただければと思います。



子どもの権利の普及・啓発については、市では広報あおもりや市のホームページ等を活用しているほか、子どもの権利に関するリーフレットや青森市子どもの権利相談センターの携帯カードを小学生から高校生まで全員に配付することにより行っています。また、大人に対する子どもの権利の普及啓発活動としては、子どもの権利擁護委員による出前講座を開催しており、多くの団体の皆さんにご利用していただけるよう、様々な場で出前講座の周知を行っています。

発表の中にありました、市営バスのPRであったり、動画作成、そして研修の増加などとてもいい考えだなと思いました。今回、20年後の青森市のすがたを描いてくれたことは、より良い青森市をつくっていくために働いている私たちにとってもとても大きな気づきになりました。

子ども会議委員の皆さんとの声をしっかりと受け止め、一緒により良い青森市をつくっていくことが、とても大切なことだと改めて感じています。これからも、自分の思いや意見を大切にしながら、周りの人と協力して行動できる皆さんでいてほしいと思っています。

## 委員からの感想



先ほど、子どもの権利擁護委員の先生方による出前講座の周知を行っているという話を聞いて、改めて子どもの権利について子ども自身が詳しく学びしっかりと理解することのほか、周囲の大人も詳しく知り、子どもに伝えいくことが大切だと思いながら活動しているので、出前講座の周知活動は、今後も継続して行っていただきたいと思いました。私たちも、さらに子どもの権利を広めていけるような活動をしていきたいと考えています。

子ども会議の認知度を高めることや、大人向けの研修会の機会を増やすことで、青森市全体に子どもの権利が広がり、子どもたちが自分自身の持っている権利を理解し、助けを求めたいときに周囲の大人に意見を伝え、子どもたち自身の心と体を守ることができるように私たちは強く願っています。

子どものうちに、そういう経験を持つことは、将来その子どもたちが大人になったときに、未來の子どもたちにも権利の大切さを伝えることができ、また、子どもから信頼感を持ってもらえるような大人になることができるので、子どものうちに権利を学ぶことの重要性に改めて気がつくことができました。

そのような未来を胸に私たちはこれからも、子どもの権利の大切さをどのように伝えられるか、子

どもたちが安心して意見を表明できる環境づくりについて常に考え、話し合いを重ねていきたいと思います。また、子どもの権利を主張するだけでなく、身近な人の権利を尊重する行動を通して、その重要性を示していくことも大切にしていきたいと思っています。

本日の意見表明の中で、もし取り入れていただける意見がありましたら、ぜひご検討いただければ幸いです。本日は私たちの思いをお聞きいただき、誠にありがとうございました。

### 教育長からの感想



まず、Let's go! Town make チームの意見表明ですが、見たこと、あるいは聞いたこと、そして考えたことしっかりと発表していたと思います。交通、除雪、そしてごみの問題、これはまちづくりにとって欠かせない事だと思っています。そしてまた、この3つが関連し合っているということにしっかりと気づいて発表しているということもお見事であったと思います。皆さんは学校において地域の課題について勉強したり、その勉強した課題についてボランティア活動をしているかと思いますが、そういう取組が将来、青森市の取組となっていければよいと思っておりますので、今日発表したことを基に学校に戻ってもしっかりと勉強しながら取り組んでほしいと思っています。がんばってください。

それから、青森ライト～権利で青森の明るい未来～チームの子どもの権利についてですが、1つは子どもの権利の認知度が低いということ、それから、2つに子どもの権利を守ろうという取組がしつかりとしている都市はそれほど多くないということを最初にお話していただきましたが、そういった中から、様々な取り組みを考えてくれました。イベント、バス、動画等については、比較的実現性が高い取組なのではと思いましたし、実現してくれればよいという感想を持ちました。権利については、多くは失われたときに大体気づくものです。そういう意味では、権利についての認知度が低いということは、青森市の子どもたちはお父さん、お母さん、あるいは先生、皆さんを取り巻く大人の人たちにしっかりと見守られているということではないかと思っています。是非そのことにも気づいてほしいと思います。一方で青森市のいじめの件数は、昨年1年間で16,000件になっています。多くはからかいなど小さなものです、実際にはそういうことが起こっています。今日、皆さんの発表はとても大切なことだと思います。是非、子どもが子どもの権利を認めるというところをしっかりと取り組んでいただければ私たちもうれしいと思いますし、それから、大人社会の中でも皆さんが表明したことをしっかりと頑張っていきたいと思っております。

青森市の子どもたちは元気を表明するだけではなくて、しっかりと人のためにボランティア活動等ができる子どもたちです。自慢の子どもたちです。昨年、ボランティア活動をした人数は延べで50,000人となっています。こういう子どもたちは他にはいないのではないかと思っています。

今日発表した20年後というのは、きっと皆さんの時代だと思います。そういう意味では今日発したことを作り上げていくのは皆さんであるということも言えるかと思いますので、学校でしっかりと勉強しながら、そういう青森市を作つてほしいと思います。

## 市長総括



まずは Let's go town make の皆さんですが、20 年前の青森市と今の青森市、大きくまちが変わっていることを実感してもらえたのではないかでしょうか。日本の多くのまちは 1960 年代頃から急激に発展し、公共施設や道路、上下水道が整備されていきました。それから 60 年以上が経ち、全国的に老朽化が進む時代に入っています。青森駅も 50 年以上使われ、老朽化に伴い建て替えされることになりました。まちは常に新しく変わっていきます。その時々で、どんなまちが求められているのかを考え、皆さんのが意見を出していくことがとても重要だと思っています。より暮らしやすいまちづくりのために、今後も是非ご協力をお願いします。

今回、市営バスや雪、ごみに関する意見表明をいただきました。どれも、昔から青森市が取り組んできている重要な課題であり、新たな意見を頂戴することができました。

また、皆さんはこのまちを知るために、いろんなところに出向き、バスを利用したり、観光客の状況を調べたりなどの活動をしていただきました。おそらく 20 年前の青森港はクルーズ船が一隻も来ていませんでしたし、外国人観光客も今ほど多くありませんでした。しかし現在は、東北で一番クルーズ船が来て、一隻寄港すると 4,000 人～5,000 人がまちを歩く時代です。当時の想定では対応しきれない部分も出てきており、今後はさらにまちをバージョンアップしていく必要があると思っています。

おみやげ店の調査でも、青森駅の営業時間が 10 時～20 時である一方、クルーズ船は朝 7 時頃に寄港するため、外国人観光客の方から、朝に開いているお店が無いという意見をもらいました。現在、商店街の皆さんと、朝の営業について検討を進めています。変化に合わせてまち側も対応を変えていくということが求められますので、市民である皆さんからも「こんなお店があればよい」という意見を発信してほしいと思います。

交通面では、バスの本数が少ないという意見もありました。市営バスの大きな課題は、人口減少で、利用者が増えないことが背景にあります。そのためにバスの本数を増やすのではなく、昨年度から利用者が予約すると自宅まで迎えに来る「デマンド交通」を導入しました。人口減少が進む地域では、この仕組みをさらに広げていきたいと考えています。また、安心して歩けるまちが望まれる、というお話をましたが、国も今ウォーカブルなまちづくりを推進しています。歩いて移動が完結できるまちを目指す取組で、皆さんの意見と重なるものですので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

除雪は毎年大変な作業ですが、皆さんのが生活に支障がないように除雪の体制を作つて毎年取り組んでいるところです。まもなく除排雪のシーズンを迎えますが、今年もしっかり取り組んでいきたいと思っております。

ごみの課題も大きく、青森市は昨年、2050 年温室効果ガス排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。それに基づいてごみ削減や、リサイクル推進に取り組んでいますが、実は青森市はリサイクル率がなかなか上がらないという課題もあります。是非リサイクルに対する意識を高めてほしいと思います。

声を上げるためには、まず知ることが大切です。まちの現状や魅力をよく知り、それを発信してい

くことがとても重要です。これからもその姿勢を持って、様々なことに取り組んでほしいと思います。

続きまして、青森ライトの皆さんです。子どもの権利条例は20年前にはまだ青森市にはありませんでしたが、全国的に広がっていた重要な取組です。子どもの権利の普及は、市としても今後さらに力を入れて取り組んでいきたいと思っています。アンケートの結果では、まだ知らないと答えた方が多かったとのことで、発信を強めていかなくてはならないと感じました。今日の子ども会議フォーラムもまさに多くの人に子どもの権利について、知ってもらうための機会として開催しました。マスコミの方も来ていますので、新聞やテレビで紹介されれば、多くの方にこの取組を知ってもらえるチャンスとなります。SNSを正しく使える皆さんの中には、情報発信の手段として、今後も子どもの権利について知ってもらう機会として、大いに活用してほしいと思います。

10年後、皆さん大人になっていますが、子どもの権利をしっかりと理解している皆さんだからこそ、次の世代にその大切さを伝える存在になります。子どもから大人まで、みんなが子どもの権利の重要性を認識できる、そんな世の中になっていくと思います。是非これからも頑張ってほしいと思います。今日は本当にありがとうございました。

## 閉会

最後に、記念撮影を行い、子ども会議フォーラム2025が終了しました。私たちが活動を通して感じたこと・考えたことに対して、市長や理事者から直接ご意見やご感想をいただき、私たちの声が市に届いたことがとてもうれしく思いました。今年度の残りの活動も有意義なものになるように取り組んでいきたいと思います。

